

満点でなくても良いので挑戦を。



岡本英子

三菱ケミカル(株)MMA & Div. ビジネスグループ
コーティング&アディティブ技術部C&A大阪室
新商品グループ
[567-0052] 茨木市室山2-13-1
グループ長
専門は高分子合成。
<https://www.mcgc.com>

今回執筆の依頼をいただき、私自身の「仕事」と「私事」の両立に悪戦苦闘した日々は少し古い経験なので後輩の皆さんの参考になるのだろうかと逡巡しましたが、渦中にいる方々の励ましになれば、とくに企業の研究員の方、今後企業研究員として就職を考えている方のお役に立てればと思い筆を進めさせていただきます（「私事」はおもに「育児」の意味で狭く捉えている点、ご容赦ください）。

職場環境にもよると思いますが、最近では短期間であっても男性の育児休業取得が進み、日常的にも家事や子育てのための遅めの出勤や早めの帰宅等、「私事」に対して職場側も柔軟に対応できるようになってきています。個別に見れば取り組みが遅れている職場があっても、それでも「仕事」と「私事」に対する考え方は変化しているのではないのでしょうか。

17、18年前と古い話ですが、当社（当時の三菱レイヨン(株)）では移動社長室という、社長が地方の事業所に滞在して社長業務の傍ら事業所の社員と直接コミュニケーションを図る取り組みが行われていました。その一環で研究所、事業所から10名ほどの女性社員と社長、人事担当が話をする機会が設けられました。私は育児休暇から復職して間もなくだったため、「両立は大変だが上司の配慮で出張や残業は最小限で業務に取り組んでいる」といった話をしたのですが、Aさんが「男性社員と同じ仕事ができないならば一人前ではないので子供は作りません」と宣言し、B先輩が「3人子供がいるが同居両親の協力があるので残業も出張もできます」と発言して、社長そっちのけで議論になり社長が仲裁にはいるということがありました。当時の「仕事」と「私事」に対する価値観が如実にあらわれていると思いますし、私自身、同世代の方の考えは理解はできました。当時は日夜ほとんどの力を研究に向けることで一人前の開発成果を達成できるという考え方が一般的で、私自身可能な限り「仕事」を優先させながら両立をしました。このことに後悔はありませんが、苦労話は参考にはならないと思っています。令和の時代、後輩の皆さんはもっと違う考え方をもちでしょうし、新しい考え方で誰もが両立に取り組んで欲しい、そして両立は

当然のことになって欲しいと考えています。

現在は「仕事」も「私事」も重要、人によって価値観はさまざまという考えに変わりつつあります。まだまだ私と同世代の価値観が古い方も混じっていて中には苦勞している方もいるかもしれませんが、それでもこの変化は後戻りすることなく、とくにコロナ禍以降の変化は劇的と感じます。効率的に働けるようになっただけでなく、上述のように性別に関係なく両立を目指す人、両立する人が増えており、それに応じて今後さらに働き方も変わっていくでしょう。そしてすべての人にとって両立が当然のことになるためには、相互に協力しあうことと、両立を制限と捉えずに挑戦してることが重要だと私は考えています。両立中は目の前のことに取り組むことで精一杯で挑戦に対して消極的な気持ちになります。周りから見ると能力的に問題なさそうな方でも昇進や新しいポジション、その他の新しい挑戦に二の足を踏んでいる方もいます。私の経験上は、挑戦すれば、少し失敗をしてもまた新たな協力が得られてなんとかできるようになります。振り返ると、もっとこうすれば良かったと反省することはあっても、挑戦せねば良かったと後悔したことはありません。最初から満点を目指して躊躇するよりも、「仕事」も「私事」もやりながら進歩して成果に繋がれば合格と考えてみてください。自分には無理と制限をせずに挑戦をして欲しいです。

また、私自身、到底一人ではやり切れず、「仕事」では上司・同僚に多くのサポートをしてもらい、「私事」では親族だけでなく自治体を通じていろいろな方のサポートを受けました。この経験は研究員としてだけの経験からは得られないもので、感謝とともに自分が「社会」と繋がっている一員であることを実感するものになり、自分も何か社会に還元したいという気持ちが芽生えました。今はまだ価値観の過渡期ですが、誰もが「仕事」と「私事」を大事にできる社会になるように、私もサポートという形と社会課題を解決する研究開発という形の両方で恩返しをしていきたいと思っています。後輩の皆さんも勇気をもって挑戦をしていってください。